

「前橋空襲を語り継ぎ、平和資料を収集展示の形の検討会」を設立します

1 設立趣旨

昭和から平成、そして令和の時代を迎えました。来年（2020年）は終戦（1945年）から、また、前橋空襲から75年目を迎えます。

戦争体験者が高齢化したり、減少したりする中で、「戦争は体験者が語るというあり方から新たな方法」が求められています。

前橋市では自治会、市民及び団体によって「戦争や前橋空襲」を語る努力が続けられてきました。市当局でも市立図書館、生活課、前橋文学館などで企画展や各種行事を行ってきました。

平成27年（2015）は戦後70年、前橋空襲被災70年の節目の年でした。節目の年に、前橋空襲をテーマとしたミュージカル「灰になった街」が上演されることが決定しました。

そこで、その1年前に当たる同26年7月19日～8月19日まで、戦争や前橋空襲を語り継ぐため、歴史文化遺産活用室（文化国際課）、生活課、前橋文学館、市立図書館が共同で、住吉町自治会、あたご歴史資料館、ぐんまマチダ戦争と平和資料館、広瀬川美術館の協力を得て「まえばし・戦争を考える展～前橋空襲と復興～」を開催し、前橋市の平和事業・教育の新たなあり方の模索のスタートとしました。

平成28年から毎年8月5日には歴史文化遺産活用委員会の「街中の神社・寺院・教会プロジェクトチーム」が自発的に、各宗教施設で市民に呼びかけ、信仰・立場などを超え一斉慰霊を行うとともに、前橋空襲について原田恒弘氏から学んだ学習成果をもとに前橋学市民学芸員が語り継ぐ行事を行ったところ、「前橋らしい慰霊の仕方」という評価を得ました。歴史文化遺産活用委員会では、8月5日を「前橋市民の平和祈念の日」とするよう提言書に盛り込みました。

いっぽう、市民団体でも「前橋に平和資料館設立をめざす会」が毎年企画展や講演会を行い、継続的に市へ平和資料館設置の陳情を行っています。平成30年、前橋市出身の映画監督・飯塚俊男氏により前橋空襲も対象とした「陸軍前橋飛行場—私たちの村も戦場であった—」が公開されたことで、前橋空襲が全国的にも注目され、映画での空襲体験者の証言の重要性が再認識されました。

住吉町自治会では、市から母子健康センターを借りて「あたご歴史資料館」を開設し、前橋空襲体験者が、自らの力で戦争を語り継ごうと市の協力を得ながら活動を展開してきましたが、開設当初は8名いた前橋空襲体験者の語り部も2名となり、高齢化したため、令和2年3月で閉館することを決め、展示資料を前橋市へ寄贈することにしました。

このように、この5年間、市、市民、自治会、市民団体によって「前橋空襲を語り継ぎ、戦争関係資料の保存と展示のためのあり方」の模索が行われてきました。この間の活動で得られた経験や知識をもとに、来年、終戦・前橋空襲被災75年を迎えるにあたり、「前橋空襲を語り継ぎ、平和資料を収集展示する形」に結論を出さなければならないという考えに至りました。そこで、市民的合意を図るために意見交換、論点の整理などを行う検討会を設立することになりました。

2 委員構成（予定）

座 長：前橋学センター長

委 員：前橋市地域づくり連絡会、前橋市生涯学習奨励員連絡協議会
前橋市歴史文化遺産活用委員会、前橋に平和資料館設立をめざす会
あたご歴史資料館、マチダ平和資料館、前橋学市民学芸員
前橋空襲一斉慰霊宗教施設関係者、前橋商工会議所

※上記各団体から1～2名

前橋市（政策部長、市民部長、文化スポーツ観光部長、教育次長）

事務局：文化国際課

3 活動内容

- ・市民の多様な意見を集約し、プロセスを可視化して、「前橋空襲を語り継ぎ、平和資料の収集展示の方向性」をまとめ、市長へ提言する。
- ・会議10回程度、先進事例の視察などを予定。
- ・会議は公開とする。

4 第1回会議

日 時：令和元年11月26日（火）午後3時30分～4時30分

会 場：前橋市役所11階南会議室

内 容：趣旨説明、委員紹介、今後の進め方について 等

傍 聴：当日午後3時受付開始

【問い合わせ】

○前橋学センター 電話 027-898-6994)

○文化国際課 電話 027-898-6992)